

No.03  
2018.10

特集  
祝！通算 20 号！  
ニュースレターの歩み

Contents

2. 巻頭言
3. 秋田県の立地適正化計画と実践
- 4・5. NEWS～ゼミのこと、大学のこと、本荘のこと～
6. 建築学研修・建築学会支部大会発表テーマ
7. ニュースレターの歩み
8. OB・OG紹介/写真コンテスト佳作選/Information

URPS

URBAN & REGIONAL PLANNING Seminar.



## 夏の回想

今年の夏は、名古屋の兄、姉と義兄の3人がお盆の休みを利用して3泊4日で来秋した。お互いが元気なうちに一度は秋田に来てもらいたいと毎年のように連絡していたが、ようやく実現の運びとなった。

### ●久しぶりの夕食で

初日の木曜は、秋田空港でレンタカーを借りてもらい、乳頭温泉郷まで足をのぼして黒湯に泊まってもらった。ここは東北でも屈指の秘湯であり、茅葺き自炊棟を体験できて満足だったようである。二日目、兄は角館の桧木内川で鮎の友釣り、姉夫婦は武家屋敷観光ということになった。夕方には仕事を終えた私も合流し、八峰町のハタハタ館で日本海を眺めながら4人で久しぶりにゆっくりと夕食をとった。

こうした時に毎回のように話題に上がるのは、私にとっては触れてもらいたくない小学生の頃の恥ずかしい話である。まあ、五人兄弟の末っ子であったから、しょうがないか。そうやって昔の思い出話を皆で愉しんでいる時が、亡き父・母への良き供養の時間だと思ったりする。

### ●少年時代

三日目は、米代川支流の藤琴川で、私も鮎の友釣りというものを初めてやってみた。兄が、わざわざ名古屋から釣り用具を2セット持ってきてくれたのである。長尺物の竿もさることながら、一通りの装具・用具を揃えるとなるとダンボール2箱分という量だ。まったく経験のない自分でも、格好だけはベテランアングラーになる。おとり鮎をつけてもらい簡単な指導を受けたら、兄は下流にいつてしまう。こっちは、初めてなので要領がわからない。

だが、恐ろしいことに兄よりも先に一匹釣ってしまった。釣ったといっても、釣り糸が左右に大きく振れたから竿を上げてみたら一匹のはずの鮎が二匹になっていた、という塩梅だ。これをビギナーズラックと言う。ヘナヘナと腰が崩れ、「つ、釣れた〜っ。」と叫んだが、兄には届かない。王網に入った二匹だが、どうすれば良いかわからない。浅瀬の水も清らかなので、そのまま腰をおろして王網を水につけて鮎を泳がせつつ、ぼーっと兄の帰りを待っていた。

夏である。

冷たい水が腰のあたりを流れている。川向うの森はワサワサ揺れ、その上空には入道雲が湧いている。陽水の「少年時代」の1フレーズを、少し小声で口ずさんでみた。

年齢を重ねても、兄弟の関係は変わらないものだな、としみじみ思った。



山口 邦雄（やまぐち くにお）  
都市・建築計画学研究グループ

## 新たな魅力としての道の駅

秋田で生活を始めてから、最も大きな変化は、徒歩中心から車中心へのライフスタイルの変化である。公共交通が充実する首都圏と比較することは無理があるが、強風や雪が多いため、よく止まる鉄道や、本数が限られるバス、商業・文化施設等の郊外立地による生活範囲の拡大から、自家用車の利用を優先することになった。実際に、秋田県の世帯別自動車保有台数は1.39台（全国20位）で、以前住んでいた神奈川県は0.74台（全国45位）と比べると、車中心の生活が一般的であることが窺える。

そのため、地域の拠点はずしも鉄道駅の周辺ではなく、車によるアクセスが便利な国道沿いに大型スーパーや商業施設が立地され、そこが拠点になることが多い。これまで、自分が当たり前前に駅周辺に存在するものと思っていたコンビニやチェーン店も国道沿いに立地することが地方では自然な風景である。

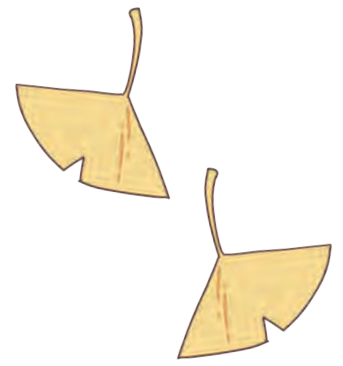
その流れの中、近年、地方都市では地域の新たな拠点として道の駅をつくるケースが多く見られる。制度の初期は、駐車場やトイレなど休憩機能が主な役割だったことに対して、近年は産業振興、地域福祉、交通結節点、防災、観光案内など、地域の様々な機能を担う拠点として注目されている。秋田県でも今年2施設がオープンし、全33施設が運営されており、各地域で特産物販売や地域交流、温泉など、地域内外の人々へその魅力を発信している。

そのうち、今年にオープンした鹿角市の「道の駅おおゆ（設計：隈研吾）」はこれまでとは異なるつくりで面白い。一般的な道の駅は国道沿いの駐車場を中心とした施設とするが、ここは駐車場の反対側の大きな広場を中心としており、広場を越えて街や川、山々が観られる縁側のような空間づくりで自然豊かな地域の魅力を感じることができる。その広場は街に隣接し、地域の公園としても利用できるように開かれた空間を実現しており、今後、地域との連携がどのように行われるのか楽しみである。地域の拠点として機能面の議論は確かに重要だが、つくるなら空間そのものの魅力を豊かにすることも重要ではないだろうか。

伊 莊植（ゆん じゃんしく）  
都市・建築計画学研究グループ



# 秋田県の立地適正化計画と実践



## 「立地適正化研究会」の取組み 山口邦雄 教授

都市再生特別措置法の改正により、2014年に立地適正化計画の制度が創設された。

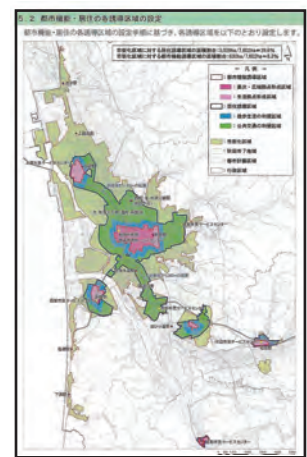
かつて50年前に導入された線引き制度は、人口急増がもたらす都市問題への対応として成果を挙げてきたが、現在では人口減少というまったく逆の動きが進行している。そのため、立地適正化計画の制度趣旨は、人口減少下においても都市の利便性を持続させるために都市の再構築を進めること、である。具体的には、市街化区域内に都市機能誘導区域と居住誘導区域を新たに指定し、コンパクトシティの形成を進めようとする計画である。こうした大きな政策動向にあわせ、当大学内でも筆者、尹先生、そして大学院生・学生を構成員とする「立地適正化研究会」を設置して、全国調査による策定動向とその特徴、課題の研究を進めてきた。

筆者は、こうした研究会の成果を実際の計画策定にフィードバックさせるべく一昨年度より秋田市、湯沢市の計画策定に携わり、本年度は横手市でも策定に係わっている。このうち、秋田市で策定された立地適正化計画は、市街化区域内（工業専用地域除く）/都市機能誘導区域の比率が9.3%と全国的にみても高集約型で策定できた。また、都市機能誘導区域内をさらに「高次・広域拠点形成区域」と「生活拠点形成区域」に分けて誘導施設に違いをもたせたこと、居住誘導区域を「徒歩生活の利便区域」と「公共交通の利便区域」に分けて住まい方の像を明確にしたこと等、全国調査の結果に照らしても先進的な内容になるよう尽力した。実際の自治体政策に影響を与えることができた地域貢献の一つであろう。

尹先生は、研究会での議論をベースに査読論文としてまとめ、また院生・学生も修論・卒論に結びつけるなど、それぞれに成果を得た研究活動を継続中である。



秋田市・湯沢市の立地適正化計画書



秋田市の誘導区域設定

# 立地適正化研究会成果報告

## 尹 莊植 特任助教

本研究会では、立地適正化計画上の目標都市構造が都市計画マスタープラン（以下、都市MP）からどのように変化したか、その実態と意義を拠点構造（階層構成とランク）と都市機能誘導区域の指定状況に着目して分析しました。

アンケート調査からは計画策定時に計画担当者は都市MPとの整合、主に都市MP上の拠点の扱いを課題として認識していること、両計画間の拠点構造の変化では3層構成（都市・地域・生活レベル）の拠点構造が2倍程度に増加したこと、公共交通と都市機能の集積状況等により都市MP上の拠点のランク変化又は拠点の新規指定が多く行われたこと、そしてこのような拠点構造の変化は都市機能誘導区域の指定と対応していることを明らかにしました。

詳細は都市計画学会学術論文として投稿しましたので、ご覧頂ければ幸いです。



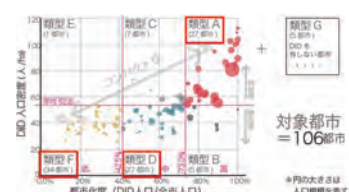
拠点構造の変化事例

拠点構造の変化と都市機能誘導区域との関係

## 小島寛之（修士2年）

立地適正化計画研究会は、近年整備されつつある集約化都市構造に向けた計画制度を研究対象とし、2017年4月に都市・地域計画ゼミの教員、学生で組織され、月1回程度の議論を設け、これまで札幌市や花巻市の行政ヒアリングや全国アンケート調査といった活動を展開してきました。今回は、全国106自治体から回答を頂いたアンケート調査の結果をまとめ、2018年度建築学会の全国大会で発表を行ってきました（発表題目：立地適正化計画制度の初動期における誘導区域設定の動向に関する研究-都市類型からみた全国アンケート調査の結果を通して-）。初動期における傾向としては、策定は中規模以上の都市で多く見られ、国からの積極的なインセンティブ活用を目的としていることが明らかになりました。

今後も研究会の成果を情報発信していけるように研究活動に邁進してまいります。



誘導区域設定の都市類型



発表の様子

# NEWS

## ゼミのこと、大学のこと、本荘のこと

### 初夏の合宿 2018

5/26、27に「初夏の合宿」が行われた。

26日は菜の花祭りでゼミの活動記録のパネルのセッティングをし、その後谷内セミナーハウスで研究報告をした。夜のBBQでは秋刀魚や岩塩の上での焼肉、締めには花火を楽しんだ。

27日は引き続き研究報告の後、菜の花祭りに再度訪れた。この二日間は普段と違った環境で活動ができとても有意義なゼミ活動になった。

(B4 千葉春輝)



1. 肉、魚、野菜…具沢山 BBQ  
2. セミナーハウス庭での BBQの様子

### 浴衣で歩く石脇夕涼み

8/19に由利本荘市石脇にて「第4回浴衣で歩く石脇夕涼み」が開催された。今年是由利本荘市が日本遺産「荒波を越えた

男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に認定され、石脇はそのゆかりの深い場所であるため、より注目を浴びたこともあり多くの来場者でにぎわった。当ゼミでは出店の手伝いの他、石脇をイメージした竹灯りによるインスタレーションを行い、多くの老若男女が足を止め、写真を撮る等、終始

注目のスポットとなった。

(NL 編集部)



1. 全員集合  
2. 竹灯り作成風景  
3. インスタレーション



### 李先生 祝・昇任 & 出産

今年度助教に昇任された李先生がご出産されたので、ひとこと頂いた。



「8/3に男の子を出産してから2ヶ月を経ちました。新しい生命の誕生はまだ不思議だと感じていますが、赤ちゃんの成長とともに、自分も「命」についてより深く理解できるかなと思います。」(李雪)

### あきた地域学

当大学でも4年前にCOC (Center of Community) 事業の導入が決まり、昨年度から「あきた地域学」が新設された。その科目において、システム科学技術学部の実務上の主担当者となって2年目を終えた。この科目は、5学科1年生の必修科目であり、「秋田を素材とし、他都市の事例参照や出身地との比較において秋田をより深く知るとともに、システム思考に基づいて地域のあり方に対する視座を身につける。」を授業の目標に設定している。学科を越えて240余名がAVホールで座学を学ぶこと、8つのコースに分かれてボランティア等の実習を課すことなど、大掛かりなものである。もちろん一人ではとても対応できなく、5学科の先生計10名と事務職員の方、そして地域の方々の協力のもとで進めてきた。

今季はブラウブリッツ秋田の岩瀬浩介社長による「スポーツを通じた地域活性化」の講演を加え、また実習コースも7つ用意するなど、昨年度から大幅な改善を図ることができた。この地で少なくとも4年間は過ごすのだから、秋田の風土・文化・人間、それに全国共通であろう地方都市の課題に対する認識を深めてほしいと思う。

(山口邦雄)

2018年度より、秋田県立大学に新3学科が誕生した。機械知能システム学科、電子情報システム学科が、機械工学科、知能メカトロニクス学科、情報工学科の3つに分化し、システム科学技術学部は5学科となった。

(大学HPより)



1. 話し合いを行う学生 2. AVホールでの座学

## 表紙の写真

「海野宿でパティオ？」 Photo by 山口邦雄



東御市の重伝建地区で見つけた中庭風の施設群。アイスコーヒーを注文し、木陰のテーブルで一休みです。旧北国街道沿いには伝統的建造物を活かしたワーキングカフェバー、ガラス工房、趣味の衣類・雑貨店など新しい感覚も組み込まれ、思いのほか新鮮でした。

URPSへ変更しました。

前回のN.L.でご案内したように、研究室の統合再編によりニュースレターのタイトルは、「UAEL」から「URPS」へ変更となりました。通算では20号となります。

## 木のおもちゃ美術館

鳥海山木のおもちゃ美術館は、国登録有形文化財であり地域の方に長年愛されてきた旧鮎川小学校をリノベーションし、「東京おもちゃ美術館」の監修のもと設立された。地元産の木を使い、市内の職人の方々によるおもちゃ、家具、内装が暖かく、大人でもわくわくする空間になっている。子どもの木育の場、地域材使用の活性化、市民の新たな活躍の場として利用される。入館すると「おもちゃ学芸員」が楽しく遊び方を教えてくれるのも魅力だ。(NL編集部)



1. 教室には様々なおもちゃが



2. 大人も遊べる大型おもちゃ

## ナイスアリーナ



10/1に「由利本荘市アリーナ（ナイスアリーナ）」がオープンした。東北最大級のアリーナで、旧国立療養所秋田病院跡地に市が整備した。災害時には避難所として機能する。(NL編集部)

## 踏切前花壇

本荘キャンパス近くの川口踏切前花壇は、「きれいな景色を作ることを通じて、地域の雰囲気をよくしていこう」と南内越花いっぱいボランティアが整備している。電車からも目に入り、人々の目を楽しませている。第53回花だんコンクールにおいて花のまちづくり賞を受賞している。(NL編集部)



## シャレットWS@紫波

学生と地域との連携によるシャレットワークショップ「～紫波日詰のまちづくりデザインを考える～」が、8/29～9/2に行われ、当ゼミの高橋が参加した。これは2018年度日本建築学会関連行事で、4泊5日の短期間で実践的な計画・デザインを地域に提案し、最終的には学会で発表した。岩手県紫波郡紫波町はPPPの先進的な実践である「オガールプロジェクト」が大きな影響を与えた一方で旧市街地とオガールエリアをどのように繋ぐかが課題でありこれについて6つのテーマ毎にグループに分かれて提案した。全国23校38名の参加者と先生、地域の方等と議論しながら、まちづくりについて深く考えることができた。(B4 高橋瑞)



1. 作業風景 2. 建築学会での発表

ようこそ！

3年生



1. 名前
2. 出身
3. 好きな食べ物
4. ひとこと

1. 岡野美月
2. 茨城県神栖市
3. 寿司、アイス
4. 仲良くさせていただきたいです！



1. 鎌田将輝
2. 秋田県由利本荘市
3. ラーメンキッチン kai のラーメン
4. ただいま減量中です！

1. 小林紗菜
2. 静岡県富士市
3. ご飯、チョコレート
4. 何事も楽しく一生懸命がんばります！



1. 齊藤蓮
2. 秋田県大仙市
3. 麩
4. 沢山お話しするのを楽しみにしてます！

1. 菅原卓矢
2. 岩手県花巻市
3. 甘いもの、噛み切れないもの
4. とりあえず誘ってください！



以上5名の3年生が新たに当ゼミに加わりました！よろしくお願ひします！

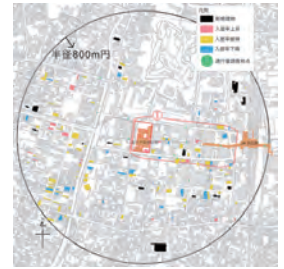


## 地方都市中心市街地における医療施設移転跡地の活用とその影響に関する一考察 —秋田県下の3事例を対象に—

高橋 瑞

本研修では地方都市中心市街地において医療施設移転による大規模跡地が行政によって新たな集客施設に整備された事例を対象に、そのプロセスや周辺への影響を明らかにすることを目的とした。以下が、明らかになったことである。

- ①医療施設移転跡地はにぎわい創出や土地の有効活用を目的に整備され、利用されている。
- ②商業機能によるにぎわい創出効果や周辺商業への影響は小さい。
- ③中心市街地の大規模跡地活用は周辺の入居率や通行量の維持に貢献していると推測できる。これらの施設をもとに周辺をより活性化するためには、ソフト面の充実や複数の拠点をつくる等面的な整備が必要である。



エリアなかいち周辺における新規建物と入居率変化

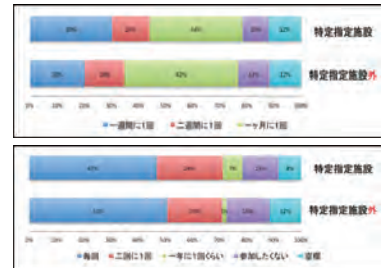
## サービス付き高齢者向け住宅の入居者によるサービスの評価と交流空間の分析 —秋田県秋田市における全27施設を対象として—

千葉 春輝

自分の研究は「サービス付き高齢者向け住宅」に住む高齢者を対象にアンケートでサービスの評価と交流空間の要望を調査しました。

結果として、サービスの評価は高く、行事に参加したいと考える高齢者は多く、交流空間でどんな事をすれば高齢者にとって良いものになるかを考えていきます。

そのため、後期では施設へのヒアリング調査で入居者側の要望に対して施設側の考えや出来る事等を明らかにしていきたいと思います。



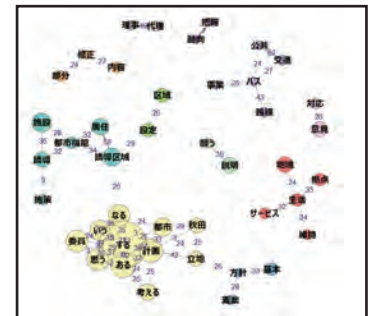
住戸内の行事頻度の要望（上）行事の参加頻度（下）

## 秋田市立地適正化計画の策定時における論点の分析 ～都市再生協議会の議事録分析を通して～

中嶋 洸太

本研修では、秋田市都市再生協議会の議事録を、テキスト分析という手法を用いて分析することで主要な論点を明らかにし、その背景や理由を考察することを目的として行った。

- 結果として、①立地適正化計画の重要な要素である公共交通についての議論があまりなされなかったこと。②拠点の方針は現在の生活を増進、発展させていくのではなく、維持させていく方針の議論がなされたこと。③人口減少、高齢化が特に深刻な地区の拠点の方針についての議論が多くなされたこと。以上が明らかになった。



秋田市都市再生協議会の共起ネットワーク

## 江戸後期から明治中期における北前船寄港地の市街地形態の分析 ～秋田の石脇、古雪、土崎の3港～

本間 匠

本研修では、対象市街地の成立経緯と市街地形態の特徴についてより詳しく把握し、地域住民が議論をする上で必要な基礎的な情報を整理することを目的とした。

本研修によって

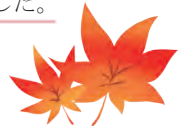
- ①3港とも米の移出が多く布類、塩、蠟、鉄等の生活に密着するものの移入が多いのに対し、土崎は石油を移入するなど、市街地機能が発達していること。
- ②石脇・古雪の共通性は、市街地としての一体性にあることが考察できた。



本荘城下絵図

## 建築学会支部大会発表テーマ 当ゼミの修士2名が、2018年度建築学会支部大会（第81回支部研究報告会）で発表してきました。

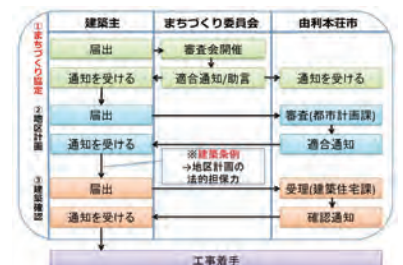
小島 寛之「都市の分類によるコンパクトシティ指標における各指標の影響度に関する研究」



須田 一陽「住民まちづくり委員会による建築審査の研究 - 都市計画道路の整備を契機とした沿道空間 -」

由利本荘市の都市計画道路の大門・本町通りは、現在拡幅整備事業実施に向けた調整が進んでおり、道路拡幅を見越した建替え更新が発生する度に、地域住民でまちを考える「まちづくり委員会」が、住民間で締結した「まちづくり協定」に基づき建築審査を行っている。本研究ではこの建築審査の全案件を分析した。その結果、①審査結果通知の際に「条件付き適合」という言葉を用いることで可能な限り適合に近づけようとする柔軟性が窺えたこと、②届出をせずに建築行為が行われることを防ぐために条文の追加を行う工夫が必要であると考察した。

須田 一陽（修士2年）



建築行為の際の流れ



祝！通算 20 号！



# ニュースレターの歩み



2008年より年2回発行されてきたニュースレター。研究室再編後も途切れることなく、20号まで続けることが出来ました。これを祝し、発起人である山口先生や、研究室の先輩方よりメッセージをいただきました。過去号の表紙とともにご覧ください。



## 「感謝です」



秋田県立大学に2007年赴任し、まず夏期集中研究を始め、ニュースレターは3年目の春に第1号を発行した。

初代編集長の福田恭史くんは、大変だったと思う。なにしろ、何も見本・手本がない中、今のニュースレターの原型をつくってくれたのだから。デザイン面では同期の立花葵さんが陰で支えてくれ、何気ない連携について気づかぬふりをしていつも嬉しかったことを思い出す(N.L.1号)。鹿角市の関善賑わい屋敷で行った夏期集中研究は、隣の建築計画ゼミのメンバーも何人か参加してくれて、柿渋塗りや漆喰による土壁修理など楽しかったことを思い出す(N.L.4号)。石脇の取組みは、2014年の夏期集中研究がきっかけだったことも教えてくれる(N.L.12号)。もう4年もたっているのか。そして、深く関わりを持った学生とともに、先生方の昇任、新任、転出等の動向も見返すことができる。

そして、とうとう通算で20号を迎えることができた。係わってくれた皆さんに、感謝である。

山口邦雄



## 研究室の先輩方より



私の1歩(企画を考えるのに必死でした)が20の歩みにつながったことをうれしく思います。ゼミの更なるご活躍を楽しみにしております。

守屋子貢(2015年卒)



夏季集中研究「石脇地区の今後のあり方」の発表から4年。将来像の実現に向けた各取組みを毎号楽しく拝見しています。  
和賀剛志(2015年卒)

作成する側としては正直大変です。でも卒業してから年2回の山口先生からの一言が楽しみなんです。これからも届けてください。

八柳翔太(2015年卒)



# OB・OG紹介

今回は12期生の宮崎元基さんより、メッセージをいただきました。



皆様こんにちは。12期生の宮崎元基と申します。

この度は貴重な機会をいただきありがとうございます。

かつて依頼していた立場から、依頼される立場へととなり、気恥ずかしさとうれしさを感じています。こんな企業や取り組み、面白さがあるという紹介をさせていただきたいと思います。

私は現在、デベロッパーとしてニュータウンの開発をしている企業に勤めています。

まず、デベロッパーとは何か説明しますと、宅地の開発やリゾートの開発を行う開発事業者のことです。また、ニュータウンの開発を行うデベロッパーは大きく2種類に分けられると考えています。

1つめは、場所を変えて小規模な開発を繰り返すタイプ。

2つめは、土地へ定着した開発を行い、持続的なまちづくりを行うタイプ。

私の勤めている企業は後者のタイプを目指しており、まちとして持続する仕組みを整え、実践する段階を迎えております。

私は、まちが持続するために大切なことは、人口の絶対数を保つということと考えています。

そのために、企業として取り組んでいることの一部を紹介します。

- ・年間住宅供給を一定に調整し世代間のバランスを維持する。
- ・タウン内の仲介販売にでた物件を積極的に買い取り、空地、空き家にならないようリフォームやリノベーションし、再販する。
- ・子育てが終わり、生活規模の変化に対して建物が大きくなってしまった場合、生活規模に合うようタウン内のマンションへの住み替えのサポートをする。

等々、他にも様々な取り組みをしています。

行政が行うまちづくりとの大きな違いは、利潤を前提とした取り組みとなることです。それが良い点でもあり、また活動の制約に繋がる点でもあります。行政にはできないまちづくりができるというのは、非常に面白くやりがいのあることだと思っています。

ほんの一部の紹介でしたが皆さまに少しでも興味を持っていただければうれしく思います。

最後に、私事でありますが、結婚し、子供にも恵まれました。日々変化し、成長する子供を見るたびに、守ろう、頑張ろうと思う幸せな日々を過ごしております。頑張れる何かが見つけられれば、大概のことは何とかなると思います。皆さまにもそのようなものがある、見つかることを願っております。

## 写真コンテスト佳作選

惜しくも表紙には選ばれませんでした。素敵な写真を紹介いたします。



「石脇の愉快的な夜」  
by 尹莊植



「本荘の夕日」  
by 尹莊植



「Welcome to dream world」  
by 齋藤蓮

※この写真がわかりますか？  
答えはp4で！

## Information

### ゼミ HP リニューアル！！



この度、都市・地域計画ゼミのHPがリニューアルしました。ゼミ内の様々な活動を掲載しています。過去のニュースターもダウンロードすることができます。ぜひご覧になってください！

Face book もやっています！ →



ゼミ HP の  
QR コード

[http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/k\\_yamaguchi/index.html](http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/k_yamaguchi/index.html)

### OB・OGの皆さんへ

都市・地域計画ゼミからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力をお願いします。連絡は山口まで。

URPS 編集部

〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4

秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

☎: 0184-27-2053 yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp

担当 山口邦雄

### 編集後記

多くの皆様のご協力により、無事に20号目のニュースターを発行することが出来ました。ご協力頂いた皆様に感謝いたします。

今回、20号の節目ということで、ここ数回続いていた表紙のレイアウトを一新してみました。いかがでしょうか。これからもニュースター、HPを通してゼミ内外の情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

高橋瑞 中嶋洸太 小島寛之 山口邦雄